12月26日、東京ドーム。

最初からかたい。どんどんボロボロになっていく。

お客さんが見えない。ひとりぼっち感がどんどん増幅していく。

「帰れない２人」で目をつぶったとたん、涙がこぼれた。

「みんなもっと近くに来て」って、そんなアンタみんな困るって。

みんなドームを楽しみにして来てくれていたのになあ。

もっとスルッと、ハッピーなライブにしたかったのにな。

ステージであんなマジ泣き、初めてだ。もう帰ろうと思った。

もうダメだ、そう思って振り向いたら、公太さんに怒鳴られた。

イヤー・モニター、ガッとはずして「何言ってんだ、このやろう！」

「ちゃんと歌え！」それで立ち直れた。「ラブリーベイベー」

「ミュージック　ファイター」歌える。けど、逆ギレだ。

イヤモニの調子が悪く、声も聴こえなかった。歌が聴こえなくて

アタマきて、イヤモニ取ったら、がなってた。

でも「LOVER SOUL」はすごくよく歌えた。みんな良かったと言

ってくれた。伝わるライブだったと言ってくれた。

でも、私は全然眠くない。

ミカがダスティン・ホフマンの古い映画を持って来てくれた。

『ジョンとメリー』。ごはんを一緒に食べながら観た。いい映画だ。

東京ドーム、私、ダメだったなぁって言ったら、

もう済んだんだし、いいじゃんって言ってくれた。

すごい淡々とそう言ってくれた。救われた。

明後日のガーデンホール、頑張ろう。

絶対楽しく普通にやるんだ。

初めての東京ドーム、本番とまったく同じ手順で行う最終リハーサルを踏まずに挑んだステージはアクシデントの続出だった。歌が聴こえない、音をとりにくい。予想に反して衣装がフィットせず、動きがとれなかった。何より、客席の歓声が聞こえない、反応がつかめない。

ファンの姿がまったく見えないことがYUKIを孤独にさせた。

一転して翌々日の恵比寿ザ・ガーデンホールでは、途中でライブを一時中断せざるを得ないほど、メンバーもオーディエンスもJUDY AND MARYの音楽に熱狂。声も、愛も、惜しみなくすべて放出した。

１２月２８日、JUDY AND MARYはこれで1998年すべてのライブを完了する。楽屋へ引き上げるエレベーターのなかで、TAKUYAと恩田、五十嵐が抱き合っていた。男３人の感動的な場面を隣で見ているうちに、JUDY AND MARYはこれで本当にしばらくお休みなんだなとYUKIは思った。が、感慨にふけっている暇はない。

はやりまくっていたインフルエンザにかかってしまったのか、それとも朝まで続いた打ち上げて騒ぎすぎたからか、３０日、風邪をひく。

高熱が出て、『紅白歌合戦』のリハーサルでは、歌えなかった。

本番当日、なんとか復活。「散歩道」をしっかり歌い上げる。

「明けましておめでとう!」

『紅白』の衣装のまま車に乗り込み、車中で着替えを済ませ、年越しも移動の車の中で。気がつけば風邪も完治。メイクは『紅白』に出たときのまま、派手な頭をして渋谷ON AIR EASTへ。

晴れ着姿の友達と新年の挨拶を交わし、ROBOTSのライブを観て、友達みんなで居酒屋へ繰り出す。

「テレビ、出てたでしょ、観たよー」などと知らないオジサンに声をかけられまくり。それから三宿のクラブで朝まで遊んで、松屋で朝定を食べて、みんなで帰る——これがYUKIの1999年1月1日の始まり。

YUKIの1999年を予感させるに十分な、賑々しいスタートだった。